

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3 月 日

事業所名 社会福祉法人プラナの森 はるにれ園

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	グループ編成をし、少人数で過ごしている。	今後も、子どもたちが活動にじっくり取り組めるよう、グループ等の調整をしながら過ごす。
	2 職員の配置数は適切である	80%	20%	お子様が安心して活動に入れるよう職員を配置している。	引き続き、お子様が安心して活動に入れるよう職員配置を検討していく。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	80%	20%	各部屋ごとにマークで示している。また、スケジュールカードを使用し、お子様に合わせて視覚的に提示している。	修繕が必要な個所を定期的に確認しながら、安全に過ごせる環境を保っていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	朝夕の清掃に加えて、都度使用した玩具や遊具の消毒、換気を行っている。また、加湿器+プラスマクラスターで空気清浄も行っている。	玩具の整理整頓を行い、心地よい環境を保つ。収納が少ないため、使用頻度での分別・整理をしていく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	100%	0%	職員会議を密にする事で、日々の業務改善に取り組んでいる。	今後も、PDCAサイクルを意識しながら、業務改善を行っていく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	保護者の方のアンケートを基に、業務改善に努めている。	保護者の方の声を大切に、検討を重ねていく。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	集計し、HPで公表している。	引き続き、公表を行っていく。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	80%	20%	監事による事業所見学を行っている。	更なる業務改善にむけ、第三者の外部評価をしていく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	80%	20%	各職員が研修に参加している。また、月に一度、園内研修で質の向上を目指している。	研修後の報告書の充実
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	利用開始時に、保護者の方からお話を伺ったり、お子様の様子をアセスメントし、個々の個別支援計画を作成している。	今後も、お子様や保護者の方のニーズに耳を傾け、個々の個別支援計画を作成していく。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	病院から頂いた発達検査・知能検査書類等を参考にし、子どもたちを観察している。	引き続き病院から頂いた書類や独自のアセスメントツールを使用し、現状把握に努めていく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	個々の個別支援計画に支援内容を取り入れ、具体的に記載している。	それぞれのお子様にあった支援内容を取り入れ、具体的な支援内容を記載していく。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	個別支援計画の目標を療育記録に取り入れながら、個々に合わせた支援を行っている。	今後も引き続き行っていく。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	担当職員を決め、その職員が中心となり、活動プログラムを検討している。	職員間で検討を重ね、より良い活動を目指す。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	担当職員を定期的に変更する事により、固定化しないように努めている。	固定化しないよう工夫をしながら、変化に弱いお子様もいる為、安心して過ごせる環境を目指していく。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	発達段階を見極めてグループ分けをし、小集団活動を取り入れている。	引き続き、個々のお子様に合わせて個別活動と集団活動を取り入れていく。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	午前午後共に療育前に打ち合わせを行い、必ず確認を行ってから療育をスタートしている。	引き続き、全職員での打ち合わせを行い、共通理解に努める。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	午前午後共に療育前に打ち合わせを行い、振り返りや確認事項を職員全体で行っている。	今後も継続して実施していく
19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	療育の内容・ノートの内容・保護者さんとお話した事等、個々の記録に残している。	引き続き、個々の記録を徹底し、必要に応じて検証・改善へと繋げていく。	

20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	半年ごとにモニタリングを実施している。保護者の方からお話を伺いながら、必要に応じて見直し等を行っている。	今後も引き続き、定期的なモニタリングを実施していく。
----	---------------------------------------	------	----	--	----------------------------

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	基本的に、療育を担当している職員が担当者会議に参加している。職員全体で資料作成を行い会議に臨んでいる。	今後も、積極的に会議に参加していく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	相談員さんと保健師さんと連携をとりながら情報共有をし、支援を進めている。	相談員さん・保健師さん等、関係機関との連携に働きかけていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	協力医療機関の設定をしている。	受け入れる際、連携を密にする。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	100%	0%	協力医療機関の設定をしている。	受け入れる際、連携を密にする。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	担当者会議の際に、お子様の様子をまとめ、引き継ぎをしている。また、情報の共有をする事で、お子様の共通理解へと繋げている。	引継ぎ会議や担当者会議に今後も積極的に参加していく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	80%	20%	担当者会議で引き継ぎを行っている。また、必要に応じて、書類作成をしている。	引継ぎ会議や担当者会議に今後も積極的に参加して提案していく
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	OTさんとSTさんとお子様について情報共有し、助言を頂いている。	今後も必要に応じて、助言等を頂きながら療育を進めていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	100%	0%	隣接するなのはなこども園で、インテグレーションを行っている。	引き続き、インテグレーションを設け、積極的に交流を図っていく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	80%	20%	積極的に参加している。	参加者の選定方法
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	療育時に連絡ファイル(だんだん)にお子様の様子を記入したり、お迎え時に直接保護者の方にお伝えしている。	引き続き、連絡ファイル(だんだん)を活用しながら、定期的な面談を設けていきたい。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	20%	80%	ペアレントトレーニングの開催をお知らせした。	必要性の周知 必要性を周知した上でお知らせ
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に行っている。	必要に応じて、説明する機会を設けながら寄り添った支援を目指す。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	保護者の方の聞き取りを基に、支援計画を作成し、保護者の方に目を通していただいた上でサインを頂いている。	保護者の方に、分かりやすく交付できるよう努める。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	定期的にごちらからもお声掛けし、必要に応じて事業所内相談の時間を設けている。	引き続き、定期的な面談を設けていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	親子行事や保護者会を開催し、保護者の方同士の交流の機会を設けている。	保護者の方同士、交流が出来る機会を増やしていけるよう検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	保護者の方のお話を大切に、関わりを設けている。また、事業所内相談の実施に努めてきた。	今後も要望の内容を聞き、適切に対応していく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	毎週のブログ更新、2か月に1度のおたより発行、玄関写真の掲示を行っている。	今後も定期的な発信に努める。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	鍵のかかるキャビネットで保管・管理している。	引き続き、個人情報の取扱いに十分注意し、療育を進めていく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	口頭だけでなく、連絡メールを活用し、各家庭に合わせた対応を心がけている。	今後も引き続き行っていく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	20%	80%	今年は、行事への招待は難しかったが、ご近所の方々への挨拶等を大切にしている。	今後、周知活動を強化し地域住民との交流を図る。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	緊急時対応マニュアル等を掲載する事で、全職員の周知へと繋げている。	引き続き、掲載しながら、周知していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	計画を作成し、お子様と指導員の動きを確認しながら、定期的に避難訓練・安全指導を実施している。	今後も計画的に避難訓練等に取り組んでいく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	利用時や年度初めにお渡ししているアセスメントシートに、服薬等についても記入して頂いている。	必要に応じて、対応していく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	60%	40%	利用時や年度初めにお渡ししているアセスメントシートに記入と、検査結果を提出して頂いている。	必要に応じて、専門家の意見も取り入れ対応していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	80%	20%	療育中に少しでも気付いたことがあれば、ヒヤリハット作成へと繋げている。	ヒヤリハット作成を今後も続け、危険意識を高めていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	虐待防止研修に参加し、全職員へと周知している。	今後も全職員を対象として研修を受けていく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	80%	20%	身体拘束となる事がないよう、日々の療育の検討に努めている。万が一そのような状況が起きる場合は、事前に保護者の方と情報共有を行っている。	引き続き、身体拘束となる事がないよう、職員間で意識を高めていく。必要に応じて、保護者の方と検討し、個別支援計画に記載していく。